



令和4年度 第3回地域協議会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため 書面表決となりました（令和4年8月16日開催予定でした）

【書面協議内容】以下のことについて、書面表決していただきました。

■令和4年度地域コミュニティ活動交付金事業申請及び意見書（案）について
まちづくり推進委員会から、「災害対応積立基金事業」、「健康づくり事業」
「大塚町体育祭共催事業」「昔の遊びとニュースポーツに挑戦事業」の4つの
事業申請と「ダンボールコンポスト事業」の18,000円増額申請、「祭り大塚共
催事業」の財源組替が提案され、以下の事業に意見を付して、同意されました。



事業名	事業への意見
1 災害対応積立基金事業 (2年目) 事業費 1,094,742円	地域が必要とする災害用資機材や避難所生活に必要な資機材を整備し、円滑な災害時の活動や避難所運営が出来るように、基金を有効に活用してほしい。また、積立基金を取り崩した後、再度基金を新設するのか、「防災充実事業」との線引きはどうするのかを検討・整理し、災害に備えてほしい。
2 健康づくり事業 (6年目) 事業費 35,000円	出来る限り健康で自立した生活を送るために、また、状態が悪くなった時に介護保険サービスを受けるために、地域包括支援センターは欠かせない存在なので、さらに連携を密にし、支援センターを地域住民にとってもっと身近な存在にしていきたい。
3 大塚町体育祭共催事業 (12年目) 事業費 752,000円	地域住民同士の親睦が深まり、絆づくりが図られるように、本年度も自治会連合会と大塚地区体育会が連携を密にして、体育祭を盛り上げていきたい。
4 昔の遊びと ニュースポーツに挑戦事業 (12年目) 事業費 40,000円	昔の遊びを通じて異世代交流を深め、子ども達が日本の文化に触れる機会を提供し、また、勝敗にこだわらずレクリエーションの一環としてニュースポーツが体験できる貴重な事業なので、今後も是非、継続していただきたい。

令和4年度 第4回地域協議会が開催されました【令和4年10月18日(火)19:00~】 新型コロナウイルス感染対策を講じ実施しました

■令和4年度地域コミュニティ活動交付金事業申請及び意見書について

まちづくり推進委員会から「防災充実事業」が提案され、以下の意見を付して、承認されました。



事業名	事業への意見
1 防災充実事業 (11年目) 事業費 530,000円	災害時の避難所生活を円滑に送るためには、防災機器・用品の整備は非常に重要であるので、地域のニーズや避難者の声を十分把握し、計画的な整備を図っていただきたい。

■「大塚地域まちづくりビジョン」の検証作業に着手しました

大塚地域まちづくりビジョンは、大塚の将来像を明確にし、地域への愛着と夢を持てるような魅力あるまちづくりを目指すために、大塚地域協議会と大塚地域まちづくり推進委員会が、住民アンケートの結果に基づき、平成25年に作成したものです。そして、ビジョンを達成するために、まちづくり推進委員会が交付金事業を実施しています。ビジョン作成後、9年経ちますので、ビジョンの達成度並びに取り組み状況を整理・確認するために、今回から検証作業に入りました。

今回は、ビジョン概要の紹介と作業内容を報告します。

【裏面に続く】





将来像と基本目標

大塚地域の目指すまちの姿(将来像)

「次世代も 笑顔あふれる 幸せな街 大塚」

※大塚地域のめざすまち像に、平成21年に公募し決定したキャッチフレーズをそのまま引き継ぐこととしました。このキャッチフレーズは、当時、大塚中学校2年に在籍していた黒野由実さんの作品です。

5年後 まち像 達成のためのスローガン

「人と人が つながる 話・和・輪」

※「人と人が話すことにより、和となり、輪が出来ていく」このスローガンは、大塚地域の人々が、近所で、地域で、様々なシーンでの「ふれあい」や「つながり」を大切にしようという「絆」となり、さらには、「地域の力」となることを願ってつけたものです。

「大塚地域住民アンケート」(5ページ参照)により大塚地域の将来についてお尋ねしたところ、福祉に対して力を入れてほしいという希望が多く、人と人のつながりや絆を求める声が多くあがっています。

高齢者 誰がいちがい多いと暮らせるまち	72%
人と人が笑え合う住み良いまち	63%
また、東日本大震災を受けて地震、津波、そして近年の大雨に対する関心が強いことがわかりました。	
安全で安心して暮らせるまち	68%
防災対策に対する希望	63%~69%

以上のことから、①人づくり、絆づくりのまちづくり と ②防災や福祉のまちづくりの2つを基本目標としました。

基本目標

①塚人の育成と絆を結びます (人づくり・絆づくり)

人と人がつながる「わ」を深めるために人づくり、絆づくりを行いながら、大塚地域全体のまつり「まつり大塚」の開催に取り組みます。

※「塚人」とは、大塚地域に住む人々全体の総称を込めて、「つかひと」と表現しています。



②安全安心な大塚の街をつくります (防災・福祉)

人と人がつながる「わ」を深めるために防災・福祉の充実したまちづくりを目指した「大塚独自の防災訓練」に取り組みます。



具体的にに取り組むこと(重点項目)

① 塚人の育成と絆を結びます

地域のふれあい

- ◇地域の人々の交流を深める
 - ・あいさつをする
 - ・顔見知りのいるまちなぎをつくる

◇人材育成を進める

- ・青年部の育成をする
- ・職業種の交流づくりをする
- ・大学生の力を活用する
- ・女性の力を活用する

◇異世代交流を深める

- ・三世交代を実施する
- ・ふれあいサロンを開催する

地域を知る

◇大塚の伝統文化の継承を進める

- ・大塚を知る講座の開催
- ・神楽や獅子舞など伝統文化の継承
- ・大塚音頭の普及と継承

地域の元気

◇商店と交流を深める

- ・商店飲食店と協力した地域活性化
- ・地域資源(商店・銀行等)を活用する

◇大塚に対する郷土愛を育む

- ・子ども達に「ふるさと」を認識させる
- ・住民の心が1つとなるイベントを行う

② 安全安心な大塚の街をつくります

自助(個人、家族で取り組むこと)

◇大塚の防災の日を作る

- ・9月6日を大塚防災の日とする(平成17年9月4日~6日の台風14号の災害を忘れない)

◇家庭で話す(家族会議)

- ・防災の日には家族で日頃の備えについて話す
- ・「自分の命を守る」家庭教育が大切

近助(近所で取り組むこと)

◇防災リーダーを育成する

- ・防災士を育成する
- ・近所で助け合い、話し合い行動する

◇女性の力の活用

- ・女性の自主防災隊員を増やす
- ・避難所で、鳥居の災害で重要な役割を担う

共助(地域全体で取り組むこと)

◇標高板の設置、避難場所誘導掲示板の設置

- ・住民みんなが避難場所を知っている
- ・地域ごとに集まる場所を決めておく

◇防災活動の普及

- ・既存の事業の中に、消火訓練やAED訓練を取り入れて体験機会を増やす

◇教育機関との合同防災訓練

- ・幼い時、子どもの頃から意識づける

まつり大塚

大塚独自の防災訓練

大塚地域の目指すまちの姿のキャッチフレーズ

次世代も 笑顔あふれる 幸せな街 大塚

5年後のまち像達成のためのスローガン

人と人が つながる 話・和・輪

基本目標

①塚人の育成と絆を結びます (人づくり・絆づくり)

②安全安心な大塚の街をつくります (防災・福祉)

重点項目

①②の基本目標を達成するために具体的にに取り組むこと

今回の地域協議会でやった検証作業

【 検証作業 】

ビジョンの基本目標①②を達成するために具体的にに取り組む重点項目(上記右側ビジョンの〇箇所)とビジョンを達成するためにまちづくり推進委員会が実施している交付金事業を照らし合わせて、実施されていないビジョンの重点項目はないかの確認と、あればその取組についてフリートークしていただきました。

今回は検証結果のみ報告し、その取組については、今後協議する新規事業と併せて報告します。

< 検証結果 >

以下の3つの項目が「実施されていないビジョンの重点項目」(上記右側ビジョンの※印)として挙げられました。

基本目標⇒①塚人の育成と絆を結びます (人づくり・絆づくり)

重点項目⇒「地域を知る(大塚の伝統文化の継承を進める)」

未実施の項目⇒①大塚を知る講座を開催する②神楽や獅子舞など伝統文化を継承する

基本目標⇒②安全安心な大塚の街をつくります (防災・福祉)

重点項目⇒「近助(防災リーダーを育成する)」

未実施の項目⇒①防災士を育成する

発行:宮崎市地域振興部 地域コミュニティ課 大塚地域事務所
 TEL:54-2222 住所:宮崎市大塚町鎌ヶ迫2296-3(大塚中学校となり)
 FAX:64-0270 メールアドレス:07otuka-c@city.miyazaki.miyazaki.jp

